



Message from Prof. Kuroda

「会いたい日本人がいる」私にそう話したのは、Leo Liさん。中国SpreadtrumのCEOである。Spreadtrumは、携帯電話用ベースバンドチップで世界3位の会社である。台湾MediaTekや米国Qualcommをやがて追い抜くだろうと目されている成長株である。A-SSCCで基調講演をしていただいた。講演の前夜、アモイのホテルのレストランで私は彼と向き合っていた。

「稲盛和夫さんに会いたい。」Liさんは、稲盛さんの経営哲学に心酔したという。中国語に翻訳された稲盛さんの本を全社員に配ったそうだ。「一生懸命働く、それが全てだ。」稲盛哲学を熱弁する。Liさんは、中国科学院大学で修士課程を修め、メリーランド大学でPhDを取得した。当時Liさんは英語を全く話せなかったそうだ。借金をして集めた僅かなお金と辞書を片手に渡米した。ファーストフードの”SUBWAY”に入って、“Ticket to New York, please”と言ったそうだ。子供のような笑顔で当時を振り返っていた。あれから四半世紀。Liさんは堪能な英語で多くの人を惹きつける国際ビジネスマンである。基調講演の後、世界経営者会議が開かれる台湾へと彼は飛び立った。

三島由紀夫文学を日本語で熱く語る韓国人経営者がいる。Kinam Kimさん。韓国サムスン電子の社長である。彼は酔うと日本語で三島の話をはじめ、サムライ文化を熱く語る。「貴方が日本文学を語るほどに私は韓国文学を知らない」と、私は恥ずかしく呟くしかない。Kinam KimさんはKAISTで学んだ後、渡米してUCLAでPhDを取っている。

今年のKKT workshopで突然歌い出した人。Nicholas Alexopoulosさんは、UCLAの電子工学科長を務めた人である。2014年の4月に私のオフィスで初めてお目にかかった。1901年にギリシャのアンティキティラの沈没船から発見された世界最古のコンピュータの話詳しく伺った。思慮深い学者肌の彼が突然歌を歌い出したときは少々驚いたが、そうだNickはギリシャ人だったと納得した瞬間だった。彼はアテネで育ち、渡米してミシガン大学で学んだ。ある日教室を出たところで教授から声をかけられ、元気がないが大丈夫かと尋ねられた。生活費の確保に苦心していることを打ち明けると、直ちに学部長室に連れて行かれ、そこで小切手を渡されたそうである。もしそのお金がなかったら、その後の彼の輝かしい人生はなかったかもしれない。「このお金を返す必要はない」と付け加えられたが、きっと10倍にして返したのだろう。そのお金がまた誰かを救ったに違いない。

6月にアーバインで開かれたBroadcom Technical Conferenceに招かれた。今年Fellowに就任したJesus Castanedaさんは、Nickの教え子である。「彼はメキシコ生まれでUCLAでは苦学生だった。努力で掴んだ栄光だよ。」と受賞を我が子のように喜ぶNickが優しかった。

たくさん成功物語がある。世界にはチャンスが溢れている。みなさんも世界に飛び出してみようでしょうか？

2015年12月 黒田忠広